

# 立ちあがる

Vol.11



1000人が来場！ 地域と学校がつながった  
イノベーションフェスタ

夢実現にまっしぐら  
十文字学園女子大学で学ぶ  
ミャンマーからの留学生

卒業生の肖像  
新米先生は、現在、小さな離島で奮戦中  
田中万葉さん（養護教諭）

研究の玉手箱  
デジタル社会で変貌する  
日本における恋愛の方程式  
山下倫実先生（十文字学園女子大学教育人文学部 心理学科 教授）

巣鴨界限そぞろ歩き

JUMONJI TOPICS

園庭のうた  
2025年度 幼稚園行事・イベント

十文字学園「教育整備募金」へのご協力をお願い  
～未来へつなぐ学びの場づくりのために～

1000人が来場！ 地域と学校がつながった

# イノベーションフェスタ



2025年11月16日、十文字中学・高等学校の校庭で、十文字高等学校自己発信コースの生徒がコーディネートした「イノベーションフェスタ」が開催されました。このイベントは本校生徒が、近隣の商店や企業、団体等に参加を呼びかけて、豊島区の多様な魅力を発信する場を提供し、地域住民の方々に楽しい時間を作っていたといたくというものです。当日は約1000名の方々が来場されて、大盛況の1日となりました。

- 3 自己発信コース③  
発見！ 無意識の思い込み
- ほっこりふらす
- 自己発信コース④  
親子でじっくり似顔絵づくり
- 2 おやとこプロジェクト  
HAPPY BEADS PROJECT
- 自己発信コース⑤  
みんなで決める遊び場
- 1 楽しく学ぼう「ミニミニアジアクイズ」
- 自己発信コース⑥  
ゲームで自分を知ろう！ レジリエンスとは？
- 4 自己発信コース⑦  
犬と遊んで学ぶふれあい体験



**おやとこプロジェクト**  
一般社団法人おやとこプロジェクトを運営する駒込の「カフェ hahaco」による出展ブース。親子でプロのマンガ家といっしょに楽しく絵を描きました。



**楽しく学ぼう「ミニミニアジアクイズ」**  
巣鴨にあるJTBツーリズムビジネスカレッジの国際観光ビジネス訪日科による出展ブース。クイズを通して異文化に触れ合えました。

- 自己発信コース⑦  
子育て24時間 タイムアタック
- 小林工芸社
- 自己発信コース⑧  
VR×防災WS
- としま未来文化財団
- 自己発信コース⑨  
SFIDA Fitness & Relax
- 豊島区すずらんスマイルプロジェクト

巣鴨地蔵通り商店街

巣鴨駅前商店街

巣鴨大島神社商店街

キッチンカー  
MASTER KEBAB JP



「自ら企画・運営を行いたい！」  
という生徒の声が高まりました

十文字高等学校の自己発信コースは、自分の意見を持ち、さまざまな人々と力を合わせて社会をよりよく変えていく「チェンジメーカー」を育てることを目標に、創生探究とマイプロジェクト探究を軸に活動しています。その自己発信コースの生徒

たちは、かねてから豊島区活性化プロジェクト(シマ活)に取り組んでいましたが、イノベーションフェスタ開催の話が進む中で、生徒たちの間で「自ら企画・運営を行いたい!」という声が高まっていきました。

生徒たちは、「イベント全体の企画・運営を考えるチーム」、「実際に販売する商品を開発するチーム」、「売上などのマーケティングを検討するチーム」、「ブース出展し、お客さんを楽しませるチーム」に分かれ、グループワークや話し合いを重ねながら準備を進めました。

まちづくりの機運を高めよう。  
一致団結して、イベント成功へ

生徒たちは「地域に根付いた商店や、子育てや高齢者支援や

文化の継承・共生などで豊島区に貢献している方々とコラボして、豊島区の文化や魅力を発信しつつ、子どもとともに育まむまちづくりの機運を高めよう」とさまざまな企画を提案。関係各所への働きかけも開始しました。その呼びかけに、豊島区教育委員会や地元商店街の方々が応援してくれました。

中には、子育て世代の方々に少しでも多く来てもらうために、事前にイベント開催のチラシを豊島区内の保育園に配りに行った生徒もいました。その効果は確かにありました。イベント当日、商店街&グルメコーナーや支援団体によるワークショップ・体験ブースがズラリと並んだ校庭には、多くの親子連れの姿が見られました。

イベント終了後には、生徒たちは、「みんなで一致団結して乗り越えることができた」「何より自分たちが楽しむことができた」といった意見や、「次回をもっと理想に近づきたい」「情報共有をもっとすべきだった」など、次の活動にむけた反省の声も聞かれました。イノベーションフェスタが、今後、どう発展していくかも楽しみです。



**ももちゃんベジチェック**

巣鴨大鳥神社商店街のキャラクター「ももちゃん」のベジチェックで野菜の摂取状態を測定!



**犬と遊んで学ぶふれあい体験**

自己発信コースの生徒が、千葉市の犬のしつけレッスン業者の「LEAD」とコラボ。ドッグトレーナーから犬との関わり方を教えてもらえました。



**発見! 無意識の思い込み**

アンコンシャスバイアス研究所と自己発信コースの生徒がコラボしたブース。アンコンシャスバイアス(意識せずに形成される思い込みや先入観のこと)を知り、自分の周りにおける無意識の思い込みを見つけてもらうことを目指しました。



**十文字JRC (青少年赤十字) 部**

日本赤十字社の活動をしているJRC部が、紅茶、ココア、コーヒーなどのソフトドリンクとマカロンを販売。



**元祖塩大福みずの**

巣鴨地蔵通り商店街の和菓子屋さん。巣鴨とげぬき地蔵の参拝みやげとして人気の塩大福を販売。



**かりんの松岸・福島屋**

巣鴨駅前商店街の老舗果物屋「かりんの松岸」と老舗和菓子屋「福島屋」も出店しました。



**放課後クッキング×とこなつ家**

東池袋の南国風ダイニングバー「とこなつ家」と自己発信コースの1年生がコラボ。販売した焼きそばに長蛇の列ができるほどの大人気!





写真右から、メイ ミャッティン チョーさん、メイ トゥー ルインさん、  
エー エー サンニさん、リン レッピョーさん

# 夢実現にまっしぐら

## 十文字学園女子大学で学ぶ ミャンマーからの留学生

2025年1月、十文字学園女子大学と練馬区は、「福祉・保育等分野での連携・協力に関する包括的な協定」を締結しました。その中には次の2点を指すと記されています。

①練馬区と十文字学園女子大学が一体となって、人材の育成・確保をはじめ、地域福祉の課題解決に向けて取り組む。

②今後、練馬区内の介護・障害福祉・保育施設・子ども家庭支援センターなどで実習を希望する学生とのマッチングや区事業への学生ボランティアの参加、外国人施策での連携などにおいて、相互の交流を図っていく。

この協定に基づいて2025年度から実施されているのが、十文字学園女子大学の留学生と練馬区内の特別養護老人ホームとのマッチングです。

留学生に対して、東京都と、学生がアルバイトしている施設から、授業料の95%にあたる額が奨学金として提供されます。また、それと同時に留学生には練馬区内の特別養護老人ホームでのアルバイトが紹介されます。

そのアルバイトは授業のスケジュールに合わせて調整され、1週間に4〜5日で、計22時間程度。アルバイト代は1か月で13万円ほどになり、学びに集中できるだけの余裕が生まれます。

現在、この制度を利用して十文字学園女子大学の人間生活学部 人間福祉学科 介護福祉士養成課程で学んでいるのが、2025年3月にミャンマーから来日した4人です。彼女たちに、来日を決意した理由と、これからの目標を聞いてみました。



ミャンマーでは、2021年の軍事クーデターにより主要政党が解散に追い込まれ、アウンサン スーチー氏たち指導者たちが収監され、現在も国内は政情不安の状態が続いている。



エーエーサンニさん(23歳)  
出身:ヤンゴン(Yangon)



AYE AYE SANNY

エーエーサンニさんは、日本への留学を目指して日本語学校で学んでいましたが、その学校で日本の十文字学園女子大学の人間福祉学科への留学の道があることを教えられ、すぐに留学を決心しました。

「もともと家族のケアをして介護に興味がありましたから、十文字学園女子大学に介護福祉士養成課程があることを知り、進学を決意しました。」

ミャンマーは高齢者が少ないこともあり、介護は家族でやるものという意識が高いし、技術的にもまだまだです。それに対し、日本の介護技術と制度はすばらしいと感じています。

今、練馬区の特別養護老人ホーム(光陽苑)でアルバイトしていますが、利用する方々に必要なことを理解して、いつも支えることができる介護福祉士になりたいと思います」

メイミヤツティンチョーさん(21歳)  
出身:ヤンゴン(Yangon)



MAY MYAT THIN KYAW

メイミヤツティンチョーさんは、高校卒業の年に新型コロナウイルスの影響で、大学進学が叶わず、日本語学校で学んでいましたが、日本アニメが好きで、将来は日本に行きたいと思っていました。

そんなとき、奨学金をもらいながら留学するチャンスがあることを知り、すぐに十文字学園女子大学への進学を決心しました。

今は、エーエーサンニさんと同じ光陽苑でアルバイトしていますが、日本の福祉の在り方に感動したと話します。

「日本では、人が人らしく生きられる社会が築かれています。今のミャンマーは、みんなが一緒になって生きるのが難しくなっています。」

すぐには無理ですが、いつか国に帰って、若い人たちに日本で学んだことを伝えたいと思います」

メイトゥールインさん(21歳)  
出身:シェエボ(Shwabo)



MAY THU LWIN

子どもの頃から日本に興味があったと振り返るのは、メイトゥールインさんです。

「アニメの『NARUTO』ナルト』や『セーラムーン』などで初めて触れた日本語がとてきれいな言語だと感じて、いつか日本に行ってみたいと思うようになっていました。その一方で、大学は医学部に進みたいと思いましたが、ミャンマー国内の政情悪化で進学が難しくなっていました。」

そんなとき、十文字学園女子大学に留学できることを知ったのです。日本の大学の医学部はやはりハードルが高かったし、自分のペースで学べる介護のほうに自分に合っていると思って、十文字学園女子大学に進学することを決めました。

今は社会福祉法人練馬豊成会で働きながら、信頼される介護福祉士になるためにがんばっています」

リンレツピョーさん(22歳)  
出身:ピンウールウィン(Pin O Lwin)



LIN LETT PHYOE

リンレツピョーさんは、もともと外国の学校に行きたいと思っていましたが、新型コロナウイルスの影響でいったん断念するしかなかった。その後、ようやく新型コロナウイルスも落ち着いてきた頃、十文字学園女子大学への留学ルートがあることを知り、すぐに来日を決心しました。

「日本に来たばかりのときには、アパートに帰っても周りが静かすぎて、泣きながらミャンマーの家族に『静かで怖いよ』と電話したものです。」

今はもうすっかり慣れて、学校に通いながら社会福祉法人練馬豊成会で働いていますが、いろいろな機会に「本当のやさしさとはこういうことなんだ」と感じています。それは日本のすばらしいところですよ。

私自身も、もっとがんばってみんなを笑顔にできる介護福祉士になりたいですね」

# 新米先生は、現在、 小さな離島で奮戦中



(田中さん)

## 中学3年で目指した 養護教諭への道

田中万葉<sup>かずは</sup>さんは、2025年3月に十文字学園女子大学を卒業し、4月に小中兼任の養護教諭として、利島<sup>としま</sup>村立利島小中学校に赴任したばかりです。

その田中さんが養護の先生になりたいと思ったのは中学3年生のときのことでした。

「お世話になった保健室の先生からこれまでになく温かさや、安心感を得られました。私もそんな存在になりたいと思ったのが、養護教諭を目指すきっかけでした」

その目標を実現するために、田中さんが選んだのが、十文字学園女子大学の教育人文学部心理学科でした。

「進学先を決めるとき、重要視したのは、『心理学に強い養護教諭になれる大学かどうかでした。心理学を学びながら養護教諭の資格が取れる大学の中で、通いやすさと自分に合った雰囲気から十文字を選びました」(田中さん)

## ターニングポイントとなった 養護実習

大学に入学してからも、田中さん



利島村立利島小中学校の保健室で  
(プロフィール) 埼玉県立川越総合高等学校卒業後、十文字学園女子大学教育人文学部心理学科で学び、現在、東京都教育委員会の養護教諭として勤務している。

## 養護教諭

# 田中万葉<sup>かずは</sup>さん

人の養護教諭になるという目標は揺らぎませんでした。大学の講義はもちろん、2年生のときには、新座市の小学校でピアサポーター(様々な課題に直面する人の相談に乗り、支援する人)を体験しました。また3年生のときには志木市の小学校で、保健室ボランティアを体験しました。そして迎えた4年生のときの養護実習がターニングポイントになったと、田中さんは振り返ります。

「私の指導養護教諭は、児童一人ひとりに寄り添い、彼らの思いを丁寧に受け止めながら、一緒に考えていく姿勢を大切にされていました。その姿は私にとってまさに理想であり、こんな養護教諭になりたいと感じさせてくれたのです」(田中さん)

## 自ら希望した 島しょ部への赴任

養護教諭になりたいと言ってもたやすいことはありません。教員採用試験全体では倍率が下がっていますが、養護教諭の採用試験の倍率は逆に上がっており、全国平均で7・7倍(2024年度)と



地図出典: 利島村役場ホームページ

極めて高くなっています。しかし田中さんは、その難関を見事に突破し、島しょ部への赴任を申し出ました。いったいなぜ、島しょ部だったのでしょうか? 田中さんは、こう答えます。

「これから教員として様々な環境の中で働きたいと思っています。自分が思い描くライフプランと照らし合わせて考えたときに、島しょ部での勤務は、できるだけ早い段階で経験しておくことが最適なのではないかと思ったのです」(田中さん)

そして田中さんは、利島への赴任を命じられました。田中さんは、「としま」という島名を聞いたのは初めてでしたし、どこにあるのかも知りませんでした」と笑顔を浮かべます。

## 島での生活は リアルサバイバル!?

田中さんが赴任した利島村立利島小中学校の児童・生徒数は26人、教職員数は30人弱。そこでの仕事は、保健室にやってくる児童・生

徒の対応、健康相談、健康診断の計画や実施、学校の衛生管理、疾病の予防や管理など多岐にわたりますが、新人だけに、わからないことや困ったことにつかります。そんなときには、前任の養護教諭や別の島の養護教諭に相談しながら対処しています。

また、コンビニない、薬局ない、大きなスーパーもない、天候によつては船が着岸できず、物資がまったく入ってこないこともある……そんな島での生活は田中さんにとつて、ある意味、リアルサバイバルだと言います。

「でもいいこともあるんですよ。たとえば、入学式や卒業式のように飾るお花を子どもたちと教員がいっしょになって育てています。また、委員会の活動の一つで池の掃除を子どもたちといっしょに行いました。離島ならではの思いですが、それも楽しいものですよ」(田中さん)

最後に田中さんから、十文字の後輩たちへのメッセージを頂きました。

「十文字には夢に近づくために挑戦する環境があります。ボランティアへの参加や学修支援センターの利用は自分の意志で決めることができます。夢を叶えたい、何かに挑戦したいという気持ちを大切にしたいと思います」(田中さん)



# デジタル社会で変貌する日本における恋愛の方程式



恋愛の形は、社会や時代に  
応じて変わっていく

山下先生は、小中高時代を通して、読むのは『源氏物語』をはじめとする古今東西の恋愛文学だったり、映画を見るにしても恋愛物ばかりだったそうです。それは人間の恋愛感情に興味を引かれたからでした。

「人って、恋に落ちると、普段だったら絶対にしないような行動をとるんですよね。例えば、電車の中でキスするなんて普段なら絶対にあり得ないと思

っている人も、恋に落ちると周りが見えなくなってしまう。どうしてそんなに盲目になれるんだろうと不思議に思いませんか？ 私は、人間関係を、特に恋愛の視点から見るのが面白かったのです」（山下先生）

そんな山下先生でしたが、「心理学の中に『恋愛の心理学』という分野がある」と知って、その道に進むことに決めたのでした。



山下 倫実 十文字学園女子大学 教育人文学部 心理学科 教授

鹿児島大学教育学部卒業後、広島大学大学院（生物圏科学研究科生物圏共存科学専攻）に進み、2009年に博士号を取得。2008年より流通経済大学教育学習支援センター専任所員として勤務した後、2012年に十文字学園女子大学人間生活学部人間発達心理学科専門講師、2017年に同大准教授、2024年に現職に就任。

山下先生は、恋愛は、動物が子孫を残すための本能的な衝動や感情だが、人間の場合、社会や時代の変化によって感情や関係性が変わっていくと指摘します。「例えば、リアルな相手と恋愛するより、AIの恋人とチャットをしたほうが楽しいという人たちが現れ、増加しています。AIは、頼めば自分の推しのキャラクターの口調で応えてくれるし、望むストーリーで話してくれます。何より、AIは自分を傷つけるようなことは決してしない。だから、恋愛の対象になり得ると言うのです」（山下先生）

また、SNSが発達する社会で、恋愛のトラブルや夫婦関係の難しさなどのネガティブな情報を目にする機会が多くなった結果、「独身のほうがいい」と言い切る人も少なくありません。あるいは、もう恋愛などせずに、自分の好きなことを優先して、例えば「推し」にお金をかけたほうがずっと楽しいという人もいます。山下先生は、こうした

現象を踏まえて、「もはや、恋愛が楽しみとか刺激のひとつでしかなくなってしまうかもしれない」と考えています。いろいろな調査結果を見ると、現代日本において、恋愛している割合は男女ともにせいぜい3割程度で、残りの7割の人にとって、恋愛は遠い世界の話になっています。その一方で、結婚のおよそ9割が恋愛結婚です。

「つまり、恋愛していない7割の人にとって、結婚はもはや遠い世界の話になっているので、そんな社会で、恋愛を重要だと位置づけると生きるのがしんどくなるので、恋愛を軽んじるようになってきたのかもしれない。AIだったり、推しだったり、その場にはいない対象や、仮想的なものに恋い焦がれるほうが安全だし楽しいと感じる人が増えてきたのも、そのためかもしれません」（山下先生）

**自分が誰と生きていくのか  
考えることが大切**

変化する社会の中で自分はどうな恋愛を選ぶのか。それは、自分がどんな人生を送るかにもつながる問題です。災害が起こったときにAIにどうやって助けてもらうのか？とか。推しにお金をいっぱい使うのはいいけど、老後ひとり生きていけるの？などと、あ

「私は学生の皆さんには、キャリアを考えるのと同じぐらい、自分は誰と生きていくのか」ということを真剣に考えてほしいと思います。そもそも、社会が求めることは割といい加減なもの。そのときどきの都合で、大人たちが言うことは変わります。例えば私が学生だったときには、働く女性、男性と対等に働ける女性がかっこいいと言われていましたが、今は、女性が社会で働きつつ、さらに子どもを産んで育てるという生き方が支持されるようになっていきます。社会の都合によっていくらでも書き換えられる……。それに飲み込まれないために、できるだけ客観的な情報に接してほしいし、学生同士でどう生きていくかを話し合っしてほしいと思いますね」（山下先生）



山下先生の授業風景



# 巣鴨界隈

## そぞろ歩き

十文字中学・高等学校の最寄り駅は、JR山手線の巣鴨駅と大塚駅です。また一歩足を延ばせば、駒込駅も遠くありません。

この3つの駅の周辺には、巣鴨（とげぬき地蔵（高岩寺）の門前町として栄えた歴史を持つ庶民的な町）、大塚（池袋に近く、昔ながらの商店街や下町の雰囲気を保つ一方、再開発が進む町）、駒込（六義園や旧古河庭園などがある一方、

静かな住宅街が広がる町」と、それぞれ特徴がある町が形成されていると同時に、常に進化を続けています。

2026年1月21日には、駒込の東洋文庫ミュージアムがリニューアルオープン、多くの来館者でにぎわっています。その他、歴史と伝統を感じさせる寺院や庭園などがここかしこに点在しており、まさにそぞろ歩きにうってつけのエリアとなっています。

3

## 旧古河庭園

北区西ヶ原1-27-39 JR山手線 駒込駅より徒歩12分



旧古河庭園の洋館前に広がるバラ園

▶この庭園はもと明治の元勳・陸奥宗光の邸宅だった。戦後、国へ所有権が移った後、地元の要望などを取り入れて、東京都が国から無償で借り受けて一般公開した。大正初期の庭園の原型を留める貴重な庭園として知られている。園内には洋風庭園、日本庭園が広がっているほか、枯滝や心字池、大滝などが楽しめる。  
写真提供: 東京都公園協会

1

## 東洋文庫ミュージアム

文京区本駒込2-28-21 JR山手線 駒込駅より徒歩8分



1年の休館を経てリニューアル

▶東洋文庫は三菱の第三代当主・岩崎久彌が1924年に設立した図書館で、世界5大東洋学研究図書館に数えられている。蔵書数は100万冊におよび、国宝5点、重要文化財7点も所有している。館内は「オリентホール」、「モリソン書庫」、「岩崎文庫」があるほか、庭園「知恵の小径」、その小径の先には「オリент・カフェ」がある。2026年1月21日にリニューアルオープンした。  
出典: 東洋文庫ミュージアムHP

知恵の小径

©christinayan by Takahiro Yanai

4

## としまみどりの防災公園(IKE&SUNPARK)

豊島区東池袋4-42 東京メトロ有楽町線 東池袋駅より徒歩5分



広々とした芝生広場が広がる、としまみどりの防災公園

▶2020年12月、造幣局東京支局跡地に誕生した豊島区最大の公園。芝生広場が区民の憩いの場として親しまれているほか、併設されたカフェでは飲食も楽しめる。また、災害が発生した場合は区の防災拠点として、ヘリポートや救援物資の受入・集配場所等として機能する。

2

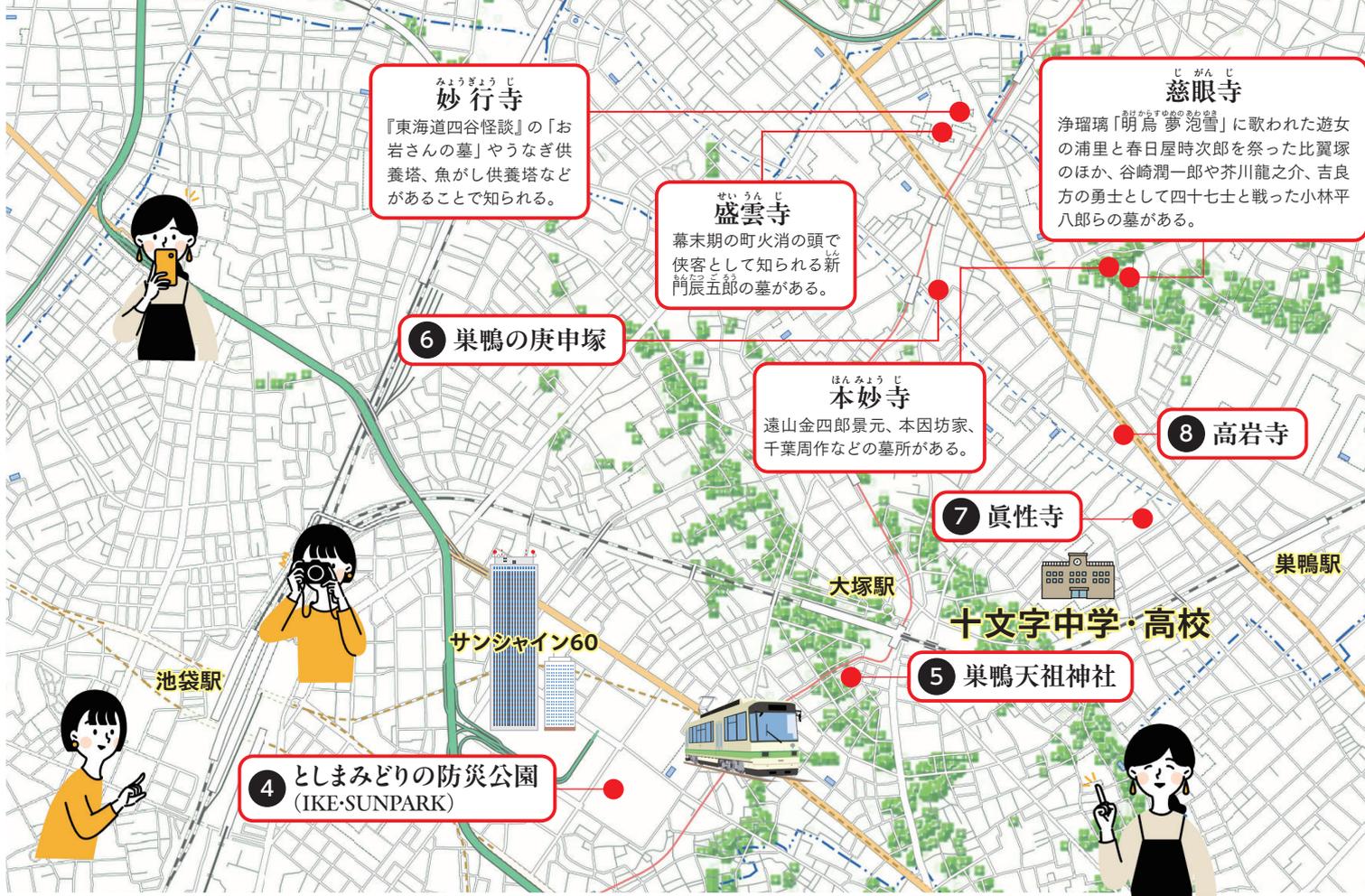
## 六義園

文京区本駒込6-16-3 JR山手線 駒込駅より徒歩7分



ライトアップされた六義園  
(夜間特別鑑賞時のみの景観)

▶1695(元禄8)年に、五代将軍徳川綱吉の側用人柳沢吉保が綱吉から賜った地に下屋敷を造り、そこに造成した回遊式築山泉水庭園。園名の「六義」は『詩経』からとったもので、元禄時代の明るくおおらかな気風を反映した江戸大名庭園とされている。  
写真©東京都公園協会



出典：国土地理院

## 7 眞性寺

豊島区巢鴨3-21-21 JR山手線 巢鴨駅より徒歩5分



眞性寺の入口に坐すのは高さ約4.85mのお地藏様

▶ 聖武天皇の勅願により行基菩薩が開いたと伝えられ、江戸時代初期の1615(元和元)年に中興開祖された古刹。「江戸六地藏尊」のひとつに数えられている。境内には大きなお地藏様が跏趺しており、旅の無事を祈るお守り役として人々に親しまれている。

## 5 巢鴨天祖神社

豊島区南大塚3-49-1 JR山手線 大塚駅より徒歩4分



天祖神社の例大祭(9月17日)

▶ かつての巢鴨村(現在の巢鴨・西巢鴨・北大塚・南大塚・東池袋2〜5丁目・上池袋1丁目)の鎮守さま。鎌倉時代末の元享年間(1321〜24年)に、領主の豊島景村が伊勢の皇大神宮の神さまをお迎えしておまつりしたのが最初だと言われている。境内には樹齢600年の夫婦銀杏の木や子育て狍犬もある。

出典：巢鴨天祖神社HP

## 8 高岩寺

豊島区巢鴨3-35-2 JR山手線 巢鴨駅より徒歩6分



地藏通りに面して建つ高岩寺の山門

▶ 1596(慶長元)年に、江戸神田湯島(現在の千代田区外神田2丁目)に創建されたが、60年後に下谷屏風坂(現在の台東区上野7丁目)に移転。さらに1891(明治24)年に現在地に移った。ご本尊の延命地藏尊(秘仏)は「とげぬき地藏」と呼ばれ、健康を願う多くの人々の信仰を集めている。

## 6 巢鴨の庚申塚

豊島区巢鴨4-35-1 都電荒川線 庚申塚停留場より徒歩2分



祀っているのは猿田彦大神

▶ この地はかつて中山道の立場(旅人の休憩所)としてにぎわっていた。1502(文亀2)年に庚申塔が造立されたが、1657(明暦3)年の明暦の大火で砕けたため、そのまま地中に埋められ、その上に現在の庚申塚が再建された。

## 直木賞作家・永井紗耶子氏の読書講演会 『『思い描く』ということ』

2025年10月4日、直木賞受賞作『木挽町のあだ討ち』（2026年映画化）で知られる、作家の永井紗耶子氏をお迎えし、「PLUS ONE 特別公開講座」とのタイアップ企画として読書講演会を開催しました。前半は、永井氏のご自身の体験を交えながら、「将来の夢を実現するための考え方」や「落ち込んだときの気持ちの立て直し方」について、そして後半は、「本を読むことの大きさ」や「面白い本との出会い方」など、読書の魅力を多角的な視点から語っていただきました。

その後の質疑応答では、例えば、本好きの生徒から、「ハッピーエンドについて。物語のラ

ストは、シンデレラ的な終わり方が多く、主人公のその後が描かれなことが多い。永井先生が考える“ハッピーエンド”とは？」といった質問や、あまり本を読まない生徒からは、「おすすめ本は？」といったシンプルな質問もあり、読書が苦手な生徒にとっても新たな学びや気づきを促す貴重な時間となりました。

最後に、永井氏から贈られた、「情報があふれる時代だからこそ、正しい情報を見極める力が求められる。そのためにも、たくさんの本を読み、自ら考える力を養ってほしい」というメッセージは、生徒たちの心に深く残ったようです。



### 第59回 桐華祭

みんなでキャンパスを染めよう  
～喜色満面に溢れる場所へ～

2025年10月25日・26日に開催された十文字学園女子大学の第59回 桐華祭は、2日間ともあいにくの天候でしたが、たくさんの方にご来場いただくことができました。

今年のテーマカラーは、一人ひとりの思いや、色が集まって笑顔と喜びに満ちたピンクを掲げました。特別な空間をつくり上げたいという思いを込め、「喜び・華やかさ・やさしさ」といったイメージを表現できる色としました。当日は狙いどおり、キャンパス全体を明るく、温かな雰囲気染め上げることができました。

学園祭終了後には、学生たちの間から、「来年も、多くの方に楽しんでいただけるよう、実行委員・学生一同、力を合わせていきたい」という声が多く上がりました。



J和太鼓部の皆さんが、力強い演奏でオープニングを飾りました



雨にも負けず、会場内は熱気に包まれた



“明るく温かな”空気をつくる、学生たちのパフォーマンス



学長とプラスちゃんが登場し、桐華祭が華やかに開幕



模擬店エリアには多くの来場者が立ち寄り、賑わっていました

### 第66回 十文字祭開催！ テーマは、 「十文字万博 #未来へ届け！青春の瞬間」！

2025年9月20日・21日に、十文字中学・高等学校では、第66回十文字祭（文化祭）が開催されました。生徒たちは、〈「十文字万博 #未来へ届け！青春の瞬間」！〉というテーマに合わせて、「各々の思いが詰まった、型にとられない自由なアイデアで、十文字の新たな未来を創りだそう」と、全員で準備を進めました。

そして、開催日当日も、学年・クラス・部活など、それぞれの場所で、最高の十文字祭を創るために、一人ひとりが力を出し合いました。思い出深い2日間となりました。



来場者を笑顔でお迎えます



JRC部によるフェアトレード商品の販売。売上金は赤十字に寄付します



“マツ”ライトイヤーで光の彼方へいざ発進！（体験型アトラクション）



お化け屋敷の雰囲気づくりも完璧！



キラキラの世界を表現した近未来カフェ☆



懐かしい時代を再現した駄菓子屋さん

十文字探究DAY2026開催

「あなたの声がみんなの知になる。」

「聞く」から「対話」へ。学びの一步を踏み出そう!

2026年1月24日、「十文字探究DAY」が開催されました。十文字探究DAYは、中学1年から高校2年までの生徒全員が、これまで取り組んできた探究の成果について学年を超えて発表する、十文字中学高等学校の恒例イベントです。今年のテーマは「あなたの声がみんなの知になる。“聞く”から“対話”へ。学びの一步を踏み出そう!」。午前中から保護者をはじめ、多くの企業や教育関係者の方々にご来場いただく中で、教室や講堂での生徒たちの発表が繰り広げられました。



本学オリジナル商品「プラスちゃんナッツ」が  
NewDays新座で販売開始しました

食物栄養学科の國井大輔特任教授が監修した、本学オリジナル商品「プラスちゃんナッツ」が、2026年1月19日よりNewDays新座にて販売を開始しました。

「プラスちゃんナッツ」は、アーモンドやくるみ、黒大豆、かぼちゃの種に加え、いちじくやクランベリーを組み合わせた、栄養バランスに配慮したナッツ商品です。食塩不使用で素材本来の味わいを大切に、手軽に楽しめる小袋タイプとして開発されました。

この商品は、実践食事学の特徴である「食べ方の工夫」として、間食や食事の前にサラダにトッピングするなど「ナッツファースト」での利用を推奨しています。

これまで学園祭や地域イベントなどで販売してきた本商品が、駅ナカ店舗で取り扱われることで、より多くの方に本学の取り組みを知っていただく機会となります。今後も本学では、教育・研究の成果を社会に発信する取り組みを進めてまいります。



園庭のうた

2025年度 幼稚園行事・イベント

「♪おせんべ焼けたかな?」

冬のお楽しみとして、七輪でおせんべいを焼いて、しょうゆを塗って、美味しく食べました。時には七輪でお野菜を焼いたり、マシュマロを焼いたり…して楽しんでます。



「お正月遊び」

お正月の遊びのこま回しや凧あげなど、自分達で色を塗ったり、絵を描いたり、それぞれの年齢に合ったものを用意して楽しみました。こま回しは、遊んでいるうちにどんどん上手になっていきました。日本の伝承遊びも大切な遊びの一つです。



# 十文字学園「教育整備募金」へのご協力のお願い

～未来へつなぐ学びの場づくりのために～

## 短期大学開学60周年／ 大学開学30周年記念教育整備募金のお願い

2026（令和8）年に十文字学園短期大学は開学60周年、十文字学園女子大学は開学30周年を迎え、記念教育整備募金を設立いたしました。その一環として、短大開学時の校舎1号館の老朽化にともない、学生、教職員、地域の方とも触れ合えるコミュニケーションスペースとして大幅な改修工事を進めています。学生はもとより社会からも評価を高められるよう引き続き歩みを進めてまいりますので、何卒ご協力のほどお願い申し上げます。

**募金方法** 大学HP「短期大学開学60周年／大学開学30周年記念教育整備募金」からお申し込みください。



## 十文字中学・高等学校 「教育整備募金」ご協力のお願い

将来を見据えた教育環境の充実を目的とした「教育整備募金」を設立いたしました。

### 【募金の目的】

- ①教育環境整備：ICT環境や実験・実習設備の更新、学習スペースの充実や機能向上などを通じて、質の高い教育・研究活動の実現を目指します。
  - ②国際教育の推進：国際的な視野と実践力を備えた人材の育成を推進してまいります。
  - ③創立の精神と学園の歩みを伝える展示環境の整備：校史資料や各種展示を通じて、本学の創立の精神とこれまでの歩みを、学生・卒業生をはじめ、来訪される多くの皆さまに丁寧に伝える展示環境の充実に活用します。
- ぜひご趣旨をご理解いただき、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

**募金方法** 中高HPサイト「寄付・ご支援」サイトからお申し込みください。



### ＜編集後記＞

昨今、中国のレアアース輸出制限の影響を受け、南鳥島周辺での重要鉱物資源調査に向けた地球深部探査船「ちきゅう」のレアアース泥試掘に、注目が集まっています。日本海域は、レアアースだけでなく、漁場として広がる水産資源やメタンハイドレート、発電活用、海洋深層水といったさまざまな海洋資源が存在しており、この国の未来を支える希望の光となっています。日本は小さな国土でありながら、EEZ（排他的経済水域）の面積は447万km<sup>2</sup>で世界6位を誇っていますが、それは、全国に点在する約1万4000の島（約420の島に人々が居住）のおかげということになります。

また、島は本土と隔てられた環境から独特の文化や風習などが存在し、過去から脈々と息づいています。それらは、日本人が本来持つ自然を敬い大切にする心、歴史や地域を大切にする心といった都市生活のなかで忘れつつある価値観のような気がしません。

さて、本誌では、利島村利島小中学校に養護教諭として赴任した本学卒業生の田中万葉さんを紹介しています。新任地として、あえて鳥しょ部への赴任を申請し、教員としてのキャリアに生かしたいという田中さんの向上心に敬意を表します。わずかな生徒数26名の小さな学び舎での教員体験は、「児童一人ひとりに寄り添い、彼らの思いを丁寧に受け止めながら、一緒に考えていく」という姿勢を通じて、田中さんを、理想の養護教員像に近づけるものです。さらに、離島での生活体験を通して、離島のさまざまな存在価値を伝えていく発信者としても活躍されるでしょう。

今、少子高齢化にもなると過疎化によって、その存立が危ぶまれている島々が多々あると聞きます。田中さんの記事を通して、離島は私たちにとって遠い地域の問題でなく、日本の将来にとって近く重要な存在であること、そして、その存在を守っていくべきことを、あらためて考えさせられた次第です。

（立ちてかひある」発行編集担当者一同）

立ちてかひある Vol.11

令和8年3月31日発行

発行 十文字学園

〒170-0004 東京都豊島区北大塚1-10-33 電話：03-3918-0511（代表）  
〒352-8510 埼玉県新座市菅沢2-1-28 電話：048-477-0555（代表）

発行人 岡本英之（学校法人十文字学園 常務理事 法人本部長）  
編集人 町田安幸（十文字学園 十文字学園女子大学 社会連携・広報部長）  
鈴木 千尋（十文字学園 十文字中学・高等学校 入試広報部）  
宮内 淳平（十文字学園 十文字学園女子大学 広報課）  
監修 本間 修（十文字学園 十文字学園女子大学 事務顧問）  
編集制作協力 ザ・ライトスタッフオフィス